

顎顔面外科学分野

Oral and Maxillofacial Surgery

- 教授 原田 清
 講師 山城正司(～3月, 4月～臨床教授),
 山口 聰(4月～), 鷗澤 成一
 助教 佐藤 豊, 儀武啓幸, 道 泰之, 黒原一人,
 中久木康一, 大山巖雄(4月～)
 医員 園田 格, 名生邦彦, 鈴木(水谷)美保,
 高橋謙一郎, 友松伸允, 中地浩之,
 道川千絵子(4月～), 炭野 淳, 大上えりか,
 稲葉好則(4月～), 三浦千佳,
 大学院 郷田 瑛, 橋田之彦, 守谷友二郎,
 山田(高橋)知里, 土田絵梨, 中村亮介,
 山田峻之, 李 慧(中国, 私費留学生),
 エンヒュボルド ウヤンガ(モンゴル 留学生)
 森田琢磨, 吉田千紘, 岡村武志, 寺内正彦,
 加地博一, 奥山紘平, 和氣 創, 近藤雄太,
 星 礼子(4月～), 金丸智紀(4月～),
 笠原祐介(4月～), 勝村早恵(4月～),
 大学院研究生 佐野(高野)祐美, 西原 駿(4月～),

(1) 教育：教育方針または主要な教育テーマ

口腔外科学においては口腔、顎、顔面領域に現れる先天性および後天性疾患について、その病因、病理、症状、診断、処置ならびに予後を理解させ、かつ、各種疾患の予防および治療に応用させるように教育する。

口腔外科学で取り扱う範囲は非常に広く歯科と医科との重なり合った領域を扱うため、内科学、外科学ならびに隣接臨床医学とは密接な関係を有している。

口腔外科学は一般に、歯およびその周囲組織を中心とした疾患を対象とする歯科口腔外科学と、顎口腔顔面領域にわたる疾患を対象とする顎口腔外科学に区分することができ、顎顔面外科学分野は顎口腔外科学分野と分担して教育する。

1-1 第5学年前期において、次の内容について講義を行う。

顎口腔医療（内容については顎口腔外科学分野と分担して行う）

- 1) 顎口腔顔面領域の奇形, 特に唇顎口蓋裂
- 2) 顎口腔顔面領域の変形症
- 3) 顎口腔顔面領域の損傷
- 4) 顎口腔顔面領域の炎症・感染症
- 5) 顎口腔顔面領域の嚢胞
- 6) 口腔粘膜疾患
- 7) 顎口腔顔面領域の良性, 悪性腫瘍
- 8) 顎関節疾患
- 9) 唾液腺疾患
- 10) 系統的骨疾患
- 11) その他

以上の疾患の成因、症状、診断、処置および予後について講義を行う。

1-2 第5学年前期に次の内容について実習を行う。

- 1) 臨床検査とその評価
 - (1) 一般簡易検査（血液型、赤血球数、白血球数、血色素量、血球容積、血球沈降速度、血液像、尿検査）
 - (2) 血液検査手技（静脈採血、動脈採血）
 - (3) 血清生化学検査、尿生化学検査（付、薬剤アレルギー検査、皮内反応）
 - (4) 顎部の診察
- 2) 滅菌および消毒法

手指の消毒, 手術野の消毒, 器械・器具の消毒など

3) 抜歯の基本手技

抜歯鉗子・挺子の使い方

4) 顎間固定法

連続歯牙結紮など

1-3 第6学年臨床実習

外来実習では抜歯およびその他外来小手術の基本手技、投薬など、病棟実習では入院患者に対する手術を理解し、術前・術後管理の基本などを修得する。

1-4 歯学部第6学年の特別講義を行っている。

1-5 医学部医学科第3学年および歯学部歯学科第3学年の顎顎部臨床ブロックの講義を担当している。

1-6 医学部医学科第4学年、口腔外科の講義、医学部医学科第5学年、口腔外科実習を担当している。

1-7 医学部保健衛生看護学科の講義を担当している。

1-8 医歯学総合研究科医歯科学専攻修士課程の講義を担当している。

(2) 研究：研究テーマ

当分野では多岐にわたる顎顔面口腔領域の疾患に対し、以下のテーマを中心に研究を行っている。

1) 顎変形症：術後の安定性と手術術式の改良を目的とした研究を行っている。特に、口内法における術式の改良、術後の下顎頭の安定性、後戻り、下顎運動、皮膚感覚、安全な上顎骨後方挙上等について検討している。

三次元超音波振動切削機（ピエゾサージェリー®、ソノベット®）を導入し、神経血管・骨膜損傷を抑える骨切り等を行っている。また骨接合の際に用いる吸収性プレートの力学的強度の研究を企業との産学連携研究として行っている。

口唇口蓋裂患者の重度の上顎發育不全に対して創内延長装置であるZurich maxillary distractorやRED systemを用いた上顎全体の骨延長の適応や術後の安定性に関して検討している。

自己血貯血の実態調査、外科手術前後の栄養調査、意識調査・口腔衛生に対する評価を行い、実際の臨床に反映させている。下顎枝矢状分割術における下顎頭位置決め方法についても改良を進めている。

また、クリニカルパスを導入して安全、確実な入院加療、術後入院期間の短縮を実現して患者に優しい医療を目指している。

1) 顎変形症：術後の安定性と手術術式の改良を目的とした研究を行っている。特に、口内法における術式の改良、術後の下顎頭の安定性、後戻り、下顎運動、皮膚感覚、安全な上顎骨後方挙上等について検討している。三次元超音波振動切削機（ピエゾサージェリー®、ソノベット®）を導入し、神経血管・骨膜損傷を抑えて馬蹄型骨切り等を行っている。また骨接合の際に用いる吸収性プレートの力学的強度の研究を企業との産学連携研究として行っている。口唇口蓋裂患者の重度の上顎發育不全に対して創内延長装置であるZürich maxillary distractorやRED systemを用いた上顎全体の骨延長の適応や術後の安定性に関して検討している。外科手術前後の栄養調査、意識調査・口腔衛生に対する評価を行い、実際の臨床に反映させている。下顎枝矢状分割術における下顎頭位置決め方法についても改良を進めている。また、クリニカルパスを導入して安全、確実な入院加療、術後入院期間の短縮を実現して患者に優しい医療を目指している。

2) 口腔悪性腫瘍：超音波、CT、MRI、PET等の画像を用いた診断や腫瘍進展範囲の検索の精度を向上させるための研究を引き続き行っている。超音波診断においては、カラードプラ超音波診断器を導入し、病変の血流の有無、方向、流速、性状など、腫瘍の質的診断の研究を行っている。

口腔癌の組織型、発生部位別の治療成績の検討から、予後不良因子を抽出し、常に治癒率の向上を目指している。

また、重複癌に関する臨床的研究、若年者・高齢者における口腔癌患者の動向に関する臨床的研究、遠隔転移様相に関する臨床的研究、口腔癌切除後の創被覆法、切除法の工夫に関する研究を行っている。さらに、術後治療の標準化、新規抗がん剤治療による治療成績についての研究を行い、治療成績の向上に寄与する研究を行っている。

口腔再建手術後の咀嚼、嚥下、構音などの口腔機能の評価法に関する研究も進めており、術後QOLを向上させる再建法について検討を行っている。術後の摂食・嚥下障害が予想される患者に対しては、摂食リハビリ外来や病棟スタッフとの連携のもとで、術前より摂食・嚥下機能評価を行っている。特に腫瘍切除後に組織移植により再建術を行う患者に対しては、クリニカルパスを作成し、早期のリハビリ開始や、術後入院期間の縮小がはかられている。また、言語機能評価は言語治療外来にて行っているが、切除範囲や術式ごとの検討を行うことにより、機能温存を重視した術式の開発に取り組んでいる。

3) 口唇口蓋裂：口唇口蓋裂患者の初回手術前より口蓋床を用い、術前顎發育誘導による歯列弓形態の経時的な変化について解析を行っている。口唇形成や口唇修正においては、積極的に人中形成を含めた自然な三次元的形態回復を行っている。顔面の形態評価については2次元解析を行っている。

口蓋形成では、言語機能や顎發育の両面を考慮したよりよい術式を選択し、成長期における咬合状態と言語機能について評価を行い、咬合や言語に与える因子の解析を行っている。

顎裂部への二次的骨移植については、単純X線写真やCTを用い骨形態や歯列弓形態についての評価を行っている。また、鼻咽腔閉鎖機能不全に対してまずは発音補助装置を用い改善を図り、必要に応じて咽頭弁移植術を行い、鼻咽腔閉鎖機能の獲得を行っている。

重度の上顎劣成長に対しては、骨延長を適応し咬合改善を行い、術後の後もどりや長期術後安定性について検討を行っている。治療終了期の患者の総合評価を行い、治療プロトコルの問題点や改善点について検討している。また、1歳半から18歳までの口腔ケアならびに口腔保健に関する研究も行って、必要に応じて患者さんフィードバックしている。

研究面では、研究書承諾書を頂いた患者さんから手術中に生じた患者さんの血液、組織を用いて口唇・口蓋裂の発生に関わる遺伝子解析を本学分子発生学分野と共同研究を行っている。

- 4) 顎関節疾患：口腔疾患と心因的な関連について、顎関節症患者を含む当科外来患者を対象として必要に応じて心理要因の調査を実施し、疼痛と不安・抑うつとの関連性を解析し、治療法を検討している。また顎関節に発生する腫瘍性病変についての外科治療を行うとともに発症原因や病態解明についての検索を行っている。

従来からある開口訓練器の改良を行うと共に新しい型式の開口訓練器と開口度測定器の新規開発、それらの実用化と臨床応用に向けての研究開発を進めている。

- 5) 口腔再建：舌、口底、頬粘膜などの軟組織再建は、主に、前腕皮弁や腹直筋皮弁などの遊離皮弁移植を用いて行っている。顎骨などの硬組織再建は、遊離肩甲骨複合皮弁などの血管柄付き骨移植、骨髄海綿骨細片(PCBM)などによる再建を行っている。顎義歯、インプラント義歯など用いた咬合再建を最終目標とする取り組みと、咀嚼機能、QOL評価を通じて、より安全で機能的な口腔再建法の確立と機能評価・術式の標準化へ向けた研究を行っている。

- 6) 口腔粘膜疾患：白板症、扁平苔癬などの口腔粘膜疾患に対する治療のために専門外来を設置している。また粘膜疾患の病態に対する原因の調査を、全身疾患、局所、心因性のものにわたって行い、治療には一部東洋医学も導入している。

- 7) 歯および骨の再生に関する研究：歯髓細胞を細胞供給元とした再生医療の研究を進めている。

これまでにヒト歯髓細胞は無血清培地にて培養した場合には象牙質を形成することが見いだされた。歯の再生には上皮系細胞と間葉系細胞が必要と思われる。上皮系細胞としてヒト口腔粘膜上皮細胞、間葉系細胞としてヒト歯髓細胞に着目し歯の再生研究を行っている。

最近になり手術時に生じる余剰骨組織よりヒト骨髄間葉系幹細胞の培養にも成功しており、再生医療への応用研究を展開していきたいと考えている。また、骨再生医療のための新たな吸収性スキャフォールドとしてポリロタキサンに注目し研究を進めている。

- 8) 口腔癌に関する基礎的研究：口腔癌に対する基礎的研究：口腔癌検体より、レーザーマイクロダイセクションを用いて、それぞれの検体から正常部、上皮性異形成部、癌部を採取し、マイクロアレイ解析を行うことにより口腔癌の発癌過程におけるmRNAレベルの発現の変化をデータベース化した。そのデータベースより、正常から上皮性異形成、上皮性異形成から浸潤癌への変化に伴い有意に発現が変化する15遺伝子を同定した。さらに、同データベースより、浸潤癌に特異的に発現する4遺伝子を同定した。

また、舌癌におけるリンパ管特異的のマーカであるpodoplaninの発現様式を免疫染色法により解析した結果、同タンパク質の発現様式は癌の浸潤様式と有意に相関することが分かった。病理組織学的に、被膜外浸潤を分類することが可能であることを示した。

(3) 臨床

臨床上の特色：近年の口腔外科疾患に対する治療法の進歩により最新かつ専門化した集学的治療体系が必要とされてきている。これに対応して当科では顎変形症、口腔悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、顎関節、口腔粘膜疾患に対して専門外来を設け個々の患者へのきめ細かい対応ができる態勢を整えている。同時に集学的治療の実践のため、顎変形症や唇顎口蓋裂では症例検討会を矯正歯科外来と合同で行っており、口腔外科医と矯正歯科医が十分な検討を行った上で治療計画を立てている。また、悪性腫瘍に限らず病態が複雑な疾患や稀少な疾患を対象に口腔病理科、歯科放射線科と合同で臨床病理カンファレンス(CPC)を行い、症例について総合的に検討することにより、診断、治療に関わる知識を深め臨床に役立てている。さらには近年、心身医学的要素を持ち合わせた口腔疾患患者の増加を鑑み、精神神経科医と合同で診療にあたるリエゾン外来を開設しており成果を上げている。

2013年の外来新患患者数は7,194名(うち再初診1,002名)、入院患者数589名、入院手術件数457件である。

(4) 研究業績

【原著】

1. Kamrun N, Tetsumura A, Nomura Y, Yamaguchi S, Baba O, Nakamura S, Watanabe H, Kurabayashi T
Visualization of the superior and inferior borders of the mandibular canal: a comparative study using digital panoramic radiographs and cross-sectional CT images. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod. 115(4):550-557, 2013

2. Yagihara K, Okabe S, Ishii J, Amagasa T, Yamashiro M, Yamaguchi S, Yokoya S, Yamazaki T, Kinoshita Y
Mandibular reconstruction using a poly(l-lactide) mesh combined with autogenous particulate cancellous bone and marrow: a prospective clinical study. *Int J Oral Maxillofac Surg.* 42(8):962-969, 2013
3. Takayuki Yamada, Masashi Yamashiro, Aya Kawamata, Yuko Katsuki, Asumi Uezono-Honda, Kou Kayamori, Kiyoshi Harada: Transparotid excision of rhabdomyosarcoma in masseter muscle: A case report. *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology* In press
4. Goda A, Maruyama F, Michi Y, Nakagawa I, Harada K Analysis of the factors affecting the formation of the microbiome associated with chronic osteomyelitis of the jaw. *Clin Microbiol Infect.* DOI: 10.1111/1469-0691.12400 (2013)
5. Yukihiro Hashida, Ken-ichi Nakahama, Kaori Shimizu, Masako Akiyama, Kiyoshi Harada, Ikuo Morita
Communication-dependent mineralization of osteoblasts via gap junctions. *BONE* Volume 61 page19-26 April, 2014
6. Shindoi JM, Matsumoto, Y, Sato Y, Ono T, Harada K Soft tissue cephalometric norms for orthognathic and cosmetic surgery. *J Oral Maxillofac Surg.* 71(1) 24-30, 2013.
7. Aya Kawamata, Masashi Yamane, Yoshimasa Nakazato A rare case of aggressive fibromatosis in the maxillary sinus *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, In Press, Corrected Proof, Available online* 10 July 2013
8. Matsushita Y, Sakamoto K, Tamamura Y, Shibata Y, Minamizato T, Kihara T, Ito M, Katsube K, Hiraoka S, Koseki H, Harada K, Yamaguchi A CCN3 Protein Participates in Bone Regeneration as an Inhibitory Factor. *J Biol Chem* 288(27):19973-85, 2013
9. Harazono Y, Muramatsu T, Endo H, Uzawa N, Kawano T, Harada K, Inazawa J, Kozaki K miR-655 is an EMT-suppressive microRNA targeting ZEB1 and TGFBR2 *PLoS One* 14;8(5):e62757, 2013
10. Harazono Y, Yamashiro M, Yoshitake H, Kayamori K, Izumo T, Harada K A case of highly suspected small cell osteosarcoma in the mandible *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology.* 462(6)665, 2013
11. Shang Gao, Makoto Shiota, Masaki Fujii, Kang Chen, Masahiro Shimogishi, Masashi Sato, Shohei Kasugai
Combination of simvastatin and hydroxyapatite fiber induces bone augmentation. *Open Journal of Regenerative Medicine,* 2(3):53-60, 2013
12. Michi Y, Suzuki M, Kurohara K, Harada K. A case of hemangiopericytoma of the soft palate with articulate disorder and dysphagia. *Int J Oral Sci.* 5(2):111-4, 2013
13. 川俣綾, 山口峻之, 鈴木美保, 道泰之, 鶴澤成一, 山城正司: 舌下腺に発生した限局性結節性アミロイドーシスの1例. *日本口腔外科学会雑誌*59(1):38-42, 2013
14. 園田格, 鶴澤成一, 山口聰, 山城正司, 原田清: 遺伝性血管性浮腫の小児に対して下顎の含菌性嚢胞摘出術を行った1例. *日本口腔外科学会雑誌*59(3):192-196, 2013
15. 細木美佐, 道泰之, 林央子, 香月佑子, 山城正司, 原田清: 髄外再発としてみられた顎下腺部顆粒球肉腫の1例. *日本口腔外科学会雑誌*59(4):245-249, 2013
16. 名生邦彦, 長谷川和樹, 宮本日出雄: 緊急対応を要した下顎骨動静脈奇形の1例. *日本口腔外科学会雑誌* 59 (5):316-320, 2013
17. 儀武啓幸, 山城正司, 中久木康一, 天笠光男: 再建用チタンプレートによる下顎再建後の合併症の危険因子について. *口科誌* 62(3):207-214, 2013.
18. 小林明子, 望月美江, 青柳順也, 山城正司, 天笠光雄, 原田清, 下歯槽神経支配領域に感覚異常のある患者の検討 - 感覚検査閾値, 自覚症状, 質問票による評価 - *口科誌*62(4):262-273, 2013
19. 山城正司, 鈴木美保, 道泰之, 鶴澤成一, 原田清, 原口美穂子, 隅田由香, 谷口尚, 矢野智之, 岡崎睦: 機能温存を目指した口腔癌治療: 咀嚼機能について. *頭頸部癌* 39(1):9 - 15, 2013
20. 鶴澤成一, 鈴木美保, 中久木康一, 道泰之, 山城正司, 原田清: シンポジウム「軟組織再建 - 患者のQOL向上を目指して」前腕皮弁について. *日本口腔腫瘍学会誌* 25(4):151-159, 2013
21. 土永浩史, 三辺正人, 横山佳子, 藪沙織, 杉山貴志, 児玉利朗: 細菌検査を用いたインプラント治療の臨床経過に関する後ろ向き症例集積研究. *日口腔インプラント誌* 26(1):21-29, 2013

[著書]

1. 佐藤豊, 佐藤文枝 著, 大谷啓一 監修: 最新歯科でよく使う鎮痛薬と抗菌薬の安心・安全レシピ. 砂書房(東京) 2013年
2. 中久木康一: 災害と歯科医師(第7回) 災害時中長期の歯科保健, *日歯広報*1584号P3, 2013年2月5日
3. 中久木康一: 災害時の歯科衛生士の役割, -期待されること、それに向けた準備-. *日本歯科衛生学会誌* 7(2):15-22, 2013年

4. 中久木康一: “身体各科に紹介した方がよい” という判断, 口あご顔の痛みと違和感 80-84, ヒョーロン, 2013年3月
5. 中久木康一: 歯科医院において痛みと違和感を訴える患者への, スタッフの対応, 口あご顔の痛みと違和感 :49, 59, 85, ヒョーロン, 2013年3月
6. 中久木康一: 舌痛と舌の違和感, 口あご顔の痛みと違和感, :24-29, ヒョーロン, 2013年3月
7. 中久木康一: 東日本大震災から2年 歯科医師の復興支援と課題 第1回「歯科の災害対応と, 今も続く支援活動」, メディカルトリビューン電子版(http://www.dental-tribune.com/articles/news/japan/12480_1.html), 2013年3月29日
8. 原田清: 「新版 家族のための歯と口の健康百科 高齢期」: 口の中のがん, 医歯薬出版(東京):331-333, 2013年3月.
9. 中久木康一: 心の影響を受けやすい身体疾患とその症状 歯科・口腔外科領域, 脳とこころのプライマリケア3 こころと身体との相互作用, :224-250, シナジー, 2013年3月29日
10. 原田清: 「今日の臨床サポート」 口腔外科」: 顎変形症. エルセビアジャパン(東京) (<http://clinicalsup.jp/>) 2013年4月.
11. 原田清: 「Dd診断力テスト」: 頬粘膜の接触痛. デンタルダイヤモンド社(東京) 38(553):119-120, 2013年5月.
12. 中久木 康一: 東日本大震災から2年 歯科医師の復興支援と課題 第2回「震災後から辿る地域振興と歯科診療」, メディカルトリビューン電子版(<http://www.dental-tribune.com/articles/news/japan/12912.html>), 2013年5月1日
13. 中久木康一: 東日本大震災から2年 歯科医師の復興支援と課題 第3回「救援活動からみえた備えるべき「コミュニケーション力と柔軟性」」, メディカルトリビューン電子版(<http://www.dental-tribune.com/articles/news/japan/13002.html>), 2013年5月8日
14. 中久木康一: ゲストエディトリアル: 2年経た今、歯科としてどう地域に貢献できるか, ザ・クインテッセンス, 32(6):31-32, 2013年6月号
15. 中久木康一, 岡安晴生, 田正臣, 鈴木哲也: 災害時の歯科技工士の役割～期待されること, その準備～. 日本歯科技工学会雑誌34(1):22-29, 2013年7月
16. 中久木康一: がん患者さんが歯科医院に来院したら何を聞きますか?, がん患者さんの口腔ケアをはじめましょう, :23-27, 学徳書院, 2013年10月
17. 中久木康一: 東日本震災後3年目の歯科保健活動の課題～現場での時間の経過と移り変わる課題、そして、日本の歯科界としての災害時対応の課題～, Well-Being NWWs, :3, 2013年11月号
18. 佐藤文明: TCHのコントロールで治す顎関節症 医歯薬出版
19. 佐藤文明: 歯科衛生士 2013年12月号あなたの患者さんの将来の顎関節症を防ごう! 超入門TCH 指導 クインテッセンス出版
20. 山城正司: 舌癌に対する密封小線源治療の適応は? 日本頭頸部癌学会編: 頭頸部癌診療ガイドライン2013年版:52-53, 金原出版株式会社
21. 山城正司: 頭頸部癌の治療において口腔ケアは有効か? 日本頭頸部癌学会編: 頭頸部癌診療ガイドライン2013年版, :93-94 金原出版株式会社
22. 山口聡, 阿部成宏, 濱田啓一, 原田清: ヒト歯髄細胞の増殖・分化に対する血清の影響日本口腔組織培養学会雑誌 22(1):3-4, 2013
23. 山口聡, 阿部成宏, 濱田啓一, 原田清: ヒト根未完成歯根尖部歯髄組織由来細胞の性質 — 再生医療への応用を目指して — 日本口腔組織培養学会雑誌 22(2):15-26, 2013
24. 山城正司: 抜歯後の皮下出血. デンタルダイヤモンド社(東京)38(554):118-119, 2013

[総説]

1. 原田清: 顎変形症の診断と手術手技—その基本と勘どころ— 日本口腔外科学会雑誌59(4):214-222, 2013
2. 原田清: 上顎の拳手術—その術前予測と現実— 東京矯正歯科学会雑誌 別冊23(2):145-151, 2013
3. 原田清: 馬蹄形Le Fort I型骨切り術 日本顎変形症学会雑誌 23(4):233-237, 2013

[新聞・パンフレット]

1. 中久木康一: 万人一語「歯科医師国家試験イップス」, 新聞QUINT, 2013年6月号(第210号) P1, 2013年6月10日
2. 中久木康一: 特別座談会「今後の歯科における災害時対応の方向性」, 新聞QUNIT, 2013年10月号(第214号) P6-7, 2013年10月10日

[学会]

1. Yosuke Harazono, Ken-ichi Kozaki, Tomoki Muramatsu, Hironori Endo, Narikazu Uzawa, Tatsuyuki Kawano, Kiyoshi Harada, Johji Inazawa: miR-655 is an EMT-suppressive microRNA targeting ZEB1 and TGFBR2 AACR/JCA Joint Conference, February 21-25, 2013 Maui, HI USA
2. Motoko Okamitsu, Taiko Hirose, Taeko Teramoto, Noriko Okubo, Hidemi Yoshimasu, Yutaka Sato, Kei-ichi Morita, Ken Omura: Factors related to social support of mothers of infants with cleft lip and/or palate. International

- Collaboration for Community Health Nursing Research Conference 2013,(March 11-13, Edinburgh, Scotland)
3. Harriman E.J, Ohyama Y, and Mochida Y: Characterization of Wdr72 Knockout Rats, Causative Gene for Amelogenesis Imperfecta. International Association for Dental Research. March 20-23, 2013, Seattle USA.
 4. Venkitapathi S, Ohyama Y, Jaha H.S, Almahmadi A, Aljamaan R, and, Mochida Y: Ciliary Colocalization and Interaction of Evc & Evc2 Proteins. International Association for Dental Research. March 20-23, 2013, Seattle USA.
 5. Nagaoka R, Torikai T, Fukawa T, Kijima T, Misawa T, Naganisi H, Omura S: Le Fort II distraction osteogenesis using original distractor in a patient with Apert syndrome. 12th International Congress on Cleft Lip/Palate and Related Craniofacial Anomalies May 5-10, 2013, Florida
 6. Yuki Matsushita, Kei Sakamoto, Ken-ichi Katsube, Kiyoshi Harada, Akira Yamaguchi: Role of CCN3/NOV in bone regeneration. 2nd Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and The Japanese Society for Bone and Mineral Research (IBMS-JSBMR) May 28-June 1, 2013, Kobe
 7. Goda A, Maruyama F, Michi Y, Ichiro N, Harada K: Analysis of the factors affecting the formation of the microbiome associated with chronic osteomyelitis of the jaw. FEMS 2013 5th congress of European microbiologists July 21-25, 2013, Leipzig, Germany
 8. Yuki Matsushita, Kei Sakamoto, Tokutarou Minamizato, Kiyoshi Harada, Akira Yamaguchi: CCN3 participates in bone regeneration as an inhibitory factor. The American Society for Bone and Mineral Research 2013 Annual Meeting (ASBMR) Oct 3-7, 2013, Baltimore
 9. Narikazu Uzawa, Miho Suzuki, Yasuyuki Michi, Masashi Yamashiro, Kiyoshi Harada: Microsurgical Free Flap Reconstructions of Head and Neck Region in 401 cases: A 25-Year Experience. 21st International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery Oct 21-24, 2013, Barcelona
 10. Yuki Matsushita, Kei Sakamoto, Yoshihiro Tamamura, Ken-ichi Katsube, Kiyoshi Harada, Akira Yamaguchi: CCN3 inhibits bone regeneration via BMP signaling pathway. 21st International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery Oct 21-24, 2013, Barcelona
 11. Chieko Michikawa, Narikazu Uzawa, Toshiyuki Izumo, Akira Yamaguchi, Kiyoshi Harada: Classification of extracapsular spread of the lymph node metastasis in oral cancer. 21st International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery Oct 21-24, 2013, Barcelona
 12. SONODA Itaru, UZAWA Narikazu, SAKAMOTO Kei, HARADA Kiyoshi: Two cases of Plasmocytosis Circumoralificalis. 21st International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery Oct 21-24, 2013, Barcelona
 13. Hidemi Yoshimasu, Yutaka Sato, Takashi Mishimagi, Yuko Katsuki, Kiyoshi Harada: Long-term results following the pharyngeal flap operation in patients with cleft palate and congenital velopharyngeal. 21st International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery Oct 21-24, 2013, Barcelona
 14. Tomomatsu N, Uzawa N, Aragaki T, Yoshitake H, Suzuki M, Watanabe Y, Harada K: A prognostic factor of the odontogenic maxillary sinusitis. 21st International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery Oct 21-24, 2013, Barcelona
 15. 宮嶋大輔、八木原一博、桂野美貴、住本和歌子、石川文隆、柳下寿郎、石井純一：口蓋隆起部に発生した扁平上皮癌の1例。第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(2013年1月24-25日, 東京)
 16. 道川千絵子、鶴澤成一、炭野淳、守谷友二朗、山城正司、原田清、山口朗、出雲俊之：被膜外浸潤を生じたリンパ節についての検討。第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(2013年1月24-25日, 東京)
 17. 山城正司、出雲俊之、佐藤徹、柴原孝彦、丸山智、八木原一博、山本信治：口腔癌早期病変（表在癌）の臨床診断。第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(2013年1月24-25日, 東京)
 18. 鶴澤成一、山城正司、原田清：シンポジウム1 軟組織再建 前腕皮弁。第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(2013年1月24-25日, 東京)
 19. 中久木康一：大規模災害時の歯科保健医療活動における、歯科衛生士・歯科技工士の役割に関する調査。第18回日本集団災害医学会総会・学術集会(2013年1月17日-19日, 神戸)
 20. 熊谷順也、小林明子、望月美江、澤田真人、山崎裕子、原田清：味覚障害に影響する因子について 第2報。第17回口腔顔面神経機能学会(2013年3月2日, 福岡)
 21. 郷田瑛、細見晋吾、渡辺孝康、野澤孝志、相川知宏、丸山史人、中川一路：顎骨骨髓炎の細菌叢を規定する因子とコア・マイクロバイオーム。第86回日本細菌学会総会(2013年3月18-20日, 幕張)
 22. 松下祐樹、坂本啓、勝部憲一、原田清、山口朗：骨再生におけるCCN3の役割。第12回日本再生医療学会総会(2013年3月21-23日, 横浜)
 23. 遠藤寛則、宮本日出雄、高野祐美、長谷川和樹：口蓋および顎部に生じたMALTリンパ腫の1例。第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
 24. 道泰之、鈴木美保、三浦千佳、園田格、山城正司、原田清：小唾液腺原発粘表皮癌の臨床的検討。第67回NPO法人日

本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)

25. 儀武啓幸、和気創、木野孔司、原田清：顎関節授動術におけるシリコンシート中間挿入物の使用の有無による術後開口量についての検討。第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
26. 鶴澤成一、鈴木美保、道泰之、山城正司、原田清：401遊離皮弁を用いた頭頸部再建の臨床的検討。第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
27. 守谷友二郎、鶴澤成一、高橋謙一郎、道川千絵子、炭野淳、原田清：上皮性異形成の癌化に特異的に関与する遺伝子の発現。第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
28. 町田章彦、奥原滋、原田清、井関祥子：髄膜におけるFoxc1/Twist1を介したBmp7の発現は頭蓋冠骨の頭頂側への成長を制御する。第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
29. 高橋謙一郎、鶴澤成一、茂柳薫、守谷友二郎、田中博、原田清：高密度SNPs Microarraysを用いた口腔扁平上皮癌原発巣と転移巣間での遺伝子CNV解析。第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
30. 鈴木美保、道泰之、鶴澤成一、山城正司、原田清：当科における肩甲骨皮弁再建症例の術後機能評価第67回NPO法人日本口腔科学会学術集会(2013年5月22-24日, 宇都宮)
31. 長岡亮介、鳥飼勝行、三沢尚弘、木島毅、長西裕樹、大村進、福山英治、島崎一夫：最少回数の手術で若年期に外科治療をほぼ終了した片側唇顎口蓋裂の1例。第37回日本口蓋裂学会総会・学術集会(2013年5月30-31日, 佐賀)
32. 佐藤豊、三島木節、香月佑子、町田章彦、壬生美智子、谷口尚、吉増秀實、原田清：家族性に発現したOral-Facial-Digital Syndrome Type I。第37回日本口蓋裂学会総会・学術集会(2013年5月30-31日, 佐賀)
33. 三島木節、香月佑子、佐藤豊、阿部成宏、上丸英、村嶋真由子、町田章彦、山田峻之、吉増秀實、原田清：片側性唇顎口蓋裂児の乳歯列期咬合評価。第37回日本口蓋裂学会総会・学術集会(2013年5月30-31日, 佐賀)
34. 吉増秀實、松田悠平、大里愛、佐藤豊、三島木節、香月佑子、町田章彦、原田清：東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科で治療を行った口唇裂・口蓋裂児の口腔保健について。第37回日本口蓋裂学会総会・学術集会(2013年5月30-31日, 佐賀)
35. 奥山紘平、道泰之、山城正司、遠山怜、川俣綾、山根正之、矢野智之、原田清：下顎半側切除術と腭骨皮弁による即時再建術を行った小児の下顎エナメル上皮線維腫の1例。第195回日本口腔外科学会関東支部学術集会(2013年6月1日, 千葉)
36. 和気創、儀武啓幸、佐藤文明、中久木康一、和気裕之、原田清：当科における顎関節症治療の現状。第195回日本口腔外科学会関東支部学術集会(2013年6月1日, 千葉)
37. 名生邦彦、道泰之、鈴木美保、原田清：80歳以上の超高齢者口腔扁平上皮癌症例の臨床的検討。第37回日本頭頸部癌学会(2013年6月13-14日, 東京)
38. 道泰之、鈴木美保、山城正司、原田清：シンポジウム2 唾液腺癌の診断と治療up-to-date小唾液腺癌の治療。第37回日本頭頸部癌学会(2013年6月13-14日, 東京)
39. 宮嶋大輔、石井純一、八木原一博、桂野美貴、住本和歌子、石川文隆、柳下寿郎、岡部貞夫：化学放射線療法と胸腔鏡下切除により治癒した進行癌の1例。第37回日本頭頸部癌学会(2013年6月13-14日, 東京)
40. 道川千絵子、鶴澤成一、炭野淳、守谷友二郎、森田琢磨、原田清、山口朗、出雲俊之：被膜外浸潤を生じた転移リンパ節の分類。第37回日本頭頸部癌学会(2013年6月13-14日, 東京)
41. 長谷川和樹、山城正司、宮本日出雄：肩甲骨皮弁による顎骨再建とデンタルインプラントの応用。第37回日本頭頸部癌学会(2013年6月13-14日, 東京)
42. 原口美恵子、山城正司、隅田由香、原田浩之、小村健、原田清、谷口尚：口腔腫瘍切除患者における顎補綴治療後の咀嚼機能評価—グミゼリーとガムを用いた臨床的評価—。第37回日本頭頸部癌学会(2013年6月13-14日, 東京)
43. 岡村武志、黒原一人、佐藤豊、儀武啓幸、中久木康一、細木美佐、友松伸充、小杉真智子、原田清：東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科における過去5年間の顎変形症患者に対する自己血輸血の実態調査。第23回顎変形症学会総会・学術大会(2013年6月22-23日, 大阪)
44. 松下祐樹、中久木康一、小杉真智子、黒原一人、儀武啓幸、細木美佐、友松伸充、原田清：上下顎移動術における下顎頭位置決めシステムの評価。第23回顎変形症学会総会・学術大会(2013年6月22-23日, 大阪)
45. 小杉真知子、中久木康一、黒原一人、儀武啓幸、細木美佐、友松伸充、原田清：Le Fort I型上顎骨骨切り術後の上口唇・上顎歯肉の知覚変化に関する検討 切開線による相違。第23回顎変形症学会総会・学術大会(2013年6月22-23日, 大阪)
46. 松下祐樹、中久木康一、小杉真智子、黒原一人、儀武啓幸、細木美佐、友松伸充、原田清：上下顎移動術における下顎頭位置決めシステムの評価。第23回顎変形症学会総会・学術大会(2013年6月22-23日, 大阪)
47. 中久木康一、小杉真智子、黒原一人、儀武啓幸、細木美佐、友松伸充、原田清：ハイドロキシアパタイト含有ポリ-L-乳酸製メッシュによる固定を行った上下顎骨骨切り術術後の安定性。第23回顎変形症学会総会・学術大会(2013年6月22-23日, 大阪)
48. 橋田之彦、龜山雅子、中浜健一、原田清、森田育男：骨芽細胞分化におけるCx43の役割について。第34回日本炎症・再生医学会学術大会(2013年7月2-3日, 京都)

49. 山城正司：がん医療において歯科医ができること。七華会学術研修会(2013年7月13日, 東京)
50. 塚越香、西山 暁、木野孔司、戸辺昌子、大友奈津子、羽毛田 匡、渋谷寿久、石川高行、神山美穂、高岡美智子、太田武信、佐藤文明：顎関節症スクリーニング質問票を用いた顎関節 症患者調査。第26回日本顎関節学会総会・学術集会(2013年7月20-21日, 東京)
51. 和気創、儀武啓幸、佐藤文明、中久木康一、和気裕之、小林明子、木野孔司、原田清：当科における顎関節症治療の現状 2011年と1993年の比較。第26回日本顎関節学会総会・学術集会(2013年7月20-21日, 東京)
52. 中久木康一、和気裕之、宮地英雄、六島聡一、小杉真智子、上園明日見、松下祐樹、土永浩史、和気創、佐藤文明、儀武啓幸、原田清、宮岡等：精神科リエゾン外来で診療した顎関節症症例の特徴。第26回日本顎関節学会総会・学術集会(2013年7月20-21日, 東京)
53. 儀武啓幸、佐藤文明、和気創、小林明子、中久木康一、和気裕之、原田清：当科における顎関節滑膜軟骨腫症の臨床統計。第26回日本顎関節学会総会・学術集会(2013年7月20-21日 東京)
54. 町田章彦、奥原滋、原田清、井関祥子：髄膜におけるFoxcl/Twist1を介したBmp7の発現は頭蓋冠骨の頭頂側への成長を制御する。第53回日本先天異常学会学術集会(2013年7月21~23日, 大阪府)
55. 長岡亮介、鳥飼勝行、長西裕樹、木島毅、馬場祥行、辻美千子、大村進、森山啓司：上下顎骨切術と梨状孔縁骨切骨延長術の併用により中顔面低成長の改善を行ったラルセン症候群の1例。第53回日本先天異常学会学術集会(2013年7月21~23日, 大阪府)
56. 郷田瑛、丸山史人、道泰之、加地博一、中川一路、原田清：顎骨骨髓炎の細菌叢を規定する因子とコア・マイクロバ イオーム。第7回細菌学若手コロッセウム(2013年8月7-9日, 広島)
57. 松下祐樹、坂本啓、南里篤太郎、原田清、山口朗：骨再生におけるCCN3の役割。第7回瀬戸内フォーラム(2013年8月17-18日, 神戸)
58. 松下祐樹、坂本啓、南里篤太郎、原田清、山口朗：CCN3は骨再生における抑制因子である。第55回歯科基礎医学会学術大会・総会(2013年9月20-22日, 岡山)
59. 大上えりか、山口聰、黒原一人、熊谷順也、岡村武志、鶴澤成一、吉増秀實、原田清：当科過去10年間における粘液腫の臨床的検討。第47回 NPO 法人日本口腔科学会関東地方部会(2013年9月28日, 東京医科歯科大学歯学部附属病院特別講堂)
60. 遠山怜、栢森高、鶴澤成一、岡田憲彦、山口朗：石灰化嚢胞性菌原性腫瘍から続発したと考えられる歯原生癌腫の一例。第47回 NPO 法人日本口腔科学会関東地方部会(2013年9月28日, 東京医科歯科大学歯学部附属病院特別講堂)
61. 道川千絵子、鶴澤成一、炭野淳、守谷友二郎、森田琢磨、出雲俊之、山口朗、原田清：被膜外浸潤の分類に関する検討。第47回 NPO 法人日本口腔科学会関東地方部会(2013年9月28日, 東京医科歯科大学歯学部附属病院特別講堂)
62. 横溝一郎、高坂晋哉：慢性期を中心とした病院でのベッドサイドにおけるレーザー治療が有効であった2例。第25回日本レーザー歯学会総会・学術大会(2013年9月28-29日, 新宿)
63. 片岡恵一、東堀 紀尚、小川卓也、佐藤豊、原田清、森山啓司：Le Fort I型骨切り術により顎裂閉鎖と上顎骨延長を行い咬合の改善を図った片側性口唇口蓋裂の一症例。第72回日本矯正歯科学会大会(2013年10月7日-9日, 長野)
64. 道泰之、水谷美保、三浦千佳、大山巖雄、出雲俊之、鶴澤成一、原田清：頬粘膜扁平上皮癌の臨床的検討。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
65. 香月佑子、三島木節、佐藤豊、町田章彦、山田峻之、吉増秀實、原田清：片側唇顎口蓋裂患者に対する術前顎發育誘導における歯槽弓形態改善に関わる因子の検討。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
66. 加地博一、中久木康一、原田清：側頭窩に迷入した上顎智歯をX線視下に抜去した1例。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
67. 儀武啓幸、原田清：顎関節の下顎頭滑走運動を誘導する新型の開口訓練器の開発。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
68. 倉沢泰浩、高橋謙一郎、大庭祥子、天笠光雄、長澤宏和：舌癌治療後急速な転帰をとった胸膜中皮腫の1例。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
69. 阿部成宏、山口聰、佐藤豊、原田清：Neurosphere法を用いたヒト口腔粘膜間葉組織由来幹細胞様細胞集団の単離と性状解析。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
70. 前田慶子、道泰之、山城正司、名生邦彦、道川千絵子、原田清：舌扁平上皮癌N0症例の局所再発・頸部後発転移に関する検討。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
71. 佐藤豊、三島木節、香月佑子、町田章彦、寺内正彦、吉田千紘、吉増秀實、原田 清：当科における医病歯病連携による口唇裂・口蓋裂の治療。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
72. 高野祐美、長谷川和樹、遠藤寛則、宮本日出雄：上顎前歯部に発生した顎骨中心性癌と考えられた1例。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
73. 炭野淳、鶴澤成一、名生邦彦、鈴木美保、大山巖雄、道泰之、原田清：口腔癌の術後後発頸部リンパ節転移の発見の契機に関する検討。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)

74. 星礼子、山口聰、原田清：下顎嚢胞におけるCT画像とオトガイ部知覚鈍磨の関係について。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
75. 水谷美保、道泰之、大山巖雄、鶴澤成一、山城正司、出雲俊之、原田清：当科における多形腺腫161例の臨床的検討。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
76. 郷田瑛、道泰之、村嶋真由子、炭野淳、守谷友二郎、加地博一、原田清：顎骨骨髓炎に関連する細菌叢の高解像度解析。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
77. 大山巖雄、Ahmad AHMEHMADI、原田 清、持田欣幸。Vwc2-like蛋白質による基質石灰化調節。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
78. 宮嶋大輔、八木原一博、桂野美貴、住本和歌子、石井純一、柳下寿郎、石川文隆：下顎骨に発生した骨芽細胞腫の1例。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
79. 黒原一人：顎矯正手術における三次元シミュレーション。第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
80. 橋田之彦、道泰之、中浜健一、原田清、森田育男：骨代謝制御におけるCx43の役割とメカニズムの解析第58回日本口腔外科学会総会・学術大会(2013年10月11-13日, 福岡)
81. 中久木康一、有川量崇、田口千恵子、那須郁夫、寺岡加代：自治体における大規模災害時の歯科保健医療体制の整備状況。第72回日本公衆衛生学会総会(2013年10月24日, 三重)
82. 香月佑子、三島木節、佐藤豊、五十嵐英、町田章彦、山田峻之、吉増秀實、原田清：片側唇顎口蓋裂に対する術前顎発育誘導の治療目標をどこに設定すべきか。第20回横浜形成外科フォーラム(2013年11月9日, 横浜)
83. 高尚、塩田真、藤井政樹、佐藤仁、春日井昇平：ハイドロキシアパタイトファイバーをキャリアとしたシンバスタチンのウサギモデルでの骨増生の促進。第17回日本顎顔面インプラント学会学術大会(2013年11月30-12月1日, 東京)
84. 三浦千佳、道泰之、名生邦彦、水谷美保、熊谷順也、勝部憲一、栢森 高、出雲俊之、原田清：下唇・オトガイ部の知覚鈍麻を初発症状とした下顎骨脈瘤性骨嚢胞の1例。第196回日本口腔外科学会関東支部学術大会(2013年12月7日, 東京)
85. 横溝一郎、小野正博、星作男、鈴木紘一、中久木康一、道泰之、原田清、吉川博康、波多野一：医療連携で周術期管理を行い手術を施行した1例。第13回世田谷区医師会医学会(2013年12月7日, 世田谷)
86. 中久木康一：災害時に歯科保健医療支援ができる食支援の可能性。日本災害食学会第1回研究発表会(2013年12月14日, 東京)

【研究助成金】

1. 原田清：微小電流刺激と骨形成因子を応用したインプラント周囲骨増生法の開発。科学研究費補助金・基盤研究C(2012-2014年度)
2. 山城正司：口腔準備期における口腔癌治療のインパクト評価。科学研究費補助金・基盤研究C(2011-2013年度)
3. 新中康史：上皮間葉間の移行阻害による癌の悪性放棄の機序解明。科学研究費補助金・基盤研究C(2011-2013年度)
4. 鶴澤成一：遺伝的相同性に基づく口腔癌頸部リンパ節転移経路の解析。科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究(2012-2013年度)
5. 大山巖雄：Vwc2-likeによる石灰化促進メカニズムの解析。科学研究費補助金・研究活動スタート支援(2013-2014年度)
6. 園田格：唾液腺癌のオーダーメイド治療に向けての研究。科学研究費補助金・若手研究B(2012-2014年度)
7. 阿部成宏：口腔組織幹細胞の有用性と限界を探索する挑戦的基礎研究：各幹細胞に適した再生医学の開発。科学研究費補助金・若手研究B(2013-2014年度)
8. 名生邦彦：FNA-FISH法による口腔扁平上皮癌の遺伝子数的異常解析の研究。科学研究費補助金・若手研究B(2013-2015年度)
9. 高橋謙一郎：なぜ長期経過観察後にも頸部リンパ節転移は生じるのか。科学研究費補助金・若手研究B(2013-2014年度)
10. 友松伸允：新たな顎骨浸潤モデルの構築とTNF- α インヒビターを利用した新規治療法の開発。科学研究費補助金・若手研究B(2012-2013年度)
11. 道川千絵子：口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移巣における被膜外浸潤の遺伝的多様性の検索。科学研究費補助金・若手研究B(2012-2013年度)
12. 大上えりか：口腔扁平上皮癌による顎骨破壊に関与する新規の因子の同定と新たな治療法の基礎構築。科学研究費補助金・若手研究B(2013-2014年度)

【その他】

研究会主催

1. 第13回関東地区口腔腫瘍研究会(2012年7月28日、東京医科歯科大学特別講堂)

勉強会主催

1. 関東地区腫瘍集談会（第244回：2月19日、第245回：3月12日、第246回：4月16日、第247回：5月28日、第248回：7月2日、第249回：9月17日、第250回：11月5日、第251回12月3日）

講演

1. 原田清：「がん患者の周術期等における口腔機能の管理等」に果たす歯科衛生士の役割。さつき会平成24年度アザレア公開講座 東京医科歯科大学特別講堂（東京、湯島）2013年1月27日。
2. 中久木康一：一般社団法人東京都西多摩歯科医師会 平成24年度医療管理事業 公開講演会「避難所における歯科医療活動と歯科保健活動について」, 2013年1月31日（木）19:00～21:00, 西多摩歯科医師会館 2階講堂
3. 中久木康一：災害時における口腔ケアの必要性とその方法, 災害時口腔ケア対応研修会, 山口県歯科医師会, 2013年2月10日（日）10時～12時, 山口県歯科医師会館
4. 佐藤文明：これからの顎関節症の治療-TCH（上下歯列接触癖）是正による力のコントローラー. 浅草歯科医師会遠見会講演会 東京, 2013年2月26日
5. 中久木康一：災害時の歯科保健活動, 平成24年度市町・県歯科保健担当者研修会（兵庫県健康福祉部健康局健康増進課）2013年3月4日（月）13:15～14:50兵庫県立ひょうご女性交流館501
6. 佐藤豊：医病歯病連携における口唇口蓋裂の治療. 第5回 医病歯病連携推進症例検討会(2013年3月8日、東京医科歯科大学歯学部附属病院4階 特別講堂)
7. 原田清：「顎変形症の診断と治療 -上顎の位置づけをどう考えるか-」: 上顎の挙上手術 -その術前予測と現実-. 平成25年東京矯正歯科学会春季セミナー（東京、有楽町）2013年4月18日。
8. 原田清：「顎変形症 私の術式その3 Le Fort I骨切り術 -基本術式とそのバリエーション-」: 馬蹄形Le Fort I骨切り術. 第23回日本顎変形症学会総会 第9回教育研修会（大阪）2013年6月21日。
9. 中久木康一：大規模災害時における歯科医療従事者の役割. (社)東京都歯科技工士会 東京都福祉保健局委託事業 実技講習会第6回 “大規模災害時における即時入れ歯の製作方法”, 2013年7月20日, 東京医科歯科大学
10. 佐藤文明：児童及び生徒における顎関節症の診断と治療. 学校歯科健診における取り組み. 第26回日本顎関節学会総会・学術大会シンポジウム2. 2013年7月20日-21日
11. 中久木康一：今後の大規模災害時の公衆衛生歯科機能を考える「災害時の歯科保健医療活動～現状と課題～」, 第31回地域歯科保健研究会(夏ゼミ) in 盛岡、岩手県公会堂、2013年7月27日
12. 佐藤文明：TCH—痛みが消える、歯が長持ちする、歯科が変わる. 東京医科歯科大学CDE講演会 東京, 2013年9月1日
13. 中久木康一：ワークショップ「今考えよう！発災後、歯科衛生士がすぐに対応できるネットワーク」, 第8回日本歯科衛生学会学術大会ワークショップ, 神戸商工会議所、2013年9月14日
14. 中久木康一：平成25年度 日本歯科衛生士会 関東信越ブロック協議会リーダー研修会「災害時における口腔保健活動の必要性と心構え」山梨県男女共同参画推進センター（びゅあ総合）, 2013年10月6日（日）
15. 中久木康一：「災害後3年目の災害時歯科保健活動の課題 ～現場での時間の経過と移り変わる課題、そして、日本の歯科界としての災害時対応への課題～」, NPO法人ウエルビーイング、福岡県歯科医師会館1階第2会議室, 2013年10月10日（木）
16. 原田清：「ワークショップI 口唇裂・口蓋裂に対する包括的医療体制の構築と課題 -Part II-」: 上顎の顎変形に対する外科的矯正治療. 第58回日本口腔外科学会総会（福岡）2013年10月11日。
17. 鶴澤成一：「ミニレクチャー 12これから始める顎口腔再建 前腕皮弁の挙上と再建について」第58回日本口腔外科学会総会（福岡）2013年10月11日
18. 中久木康一：平成25年度松阪地区歯科医師会『震災支援公開セミナー』「東日本大震災後の歯科保健活動 ～災害時の体制整備に向けた課題～」, 松阪市健康センター2F大会議室, 2013年10月22日（日）
19. 中久木康一：第72回日本公衆衛生学会自由集会「災害時の住民の健康を守るための職種を越えた食支援のための連携」, 指定発言「災害時に栄養と歯科がどう連携できるのか～東日本大震災における経験から～」, 三重県総合文化センター生涯学習センター4F小研修室, 2013年10月23日（木）
20. 中久木康一：大規模災害時の歯科保健医療支援体制～現状・課題・方向性～, 千葉大学災害看護グローバルリーダー養成プログラム（DNGL）イブニングセミナー, 2013年11月5日（火）18時～19時半, 千葉大学看護学部北棟1階126号室 COE会議室
21. 中久木康一：「災害時の歯科衛生士の役割」、特別区職員研修「歯科保健」、2013年11月11日（月）9時～12時30
22. 佐藤豊：歯科医院で注意すべき内科的疾患および薬剤. 荒川区歯科医師会館学術講演会（2013年11月13日、荒川区）
23. 中久木康一：第15回横浜中央地域歯科病診連携研究会 特別講演「歯科医院における災害対策とは？ ～守る・開く・届ける・続ける～」, 2013年11月16日（土）19:30～21:00, 横浜船員保険病院大講堂
24. 原田清：口腔粘膜疾患 その鑑別のポイント. 浅草歯科医師会遠見会講演（東京、浅草）2013年11月26日。

25. 中久木康一：平成25年度災害支援歯科衛生士フォーラム、「災害支援活動 歯科衛生士実践マニュアル」を活用した支援活動及びネットワークについて、日本歯科衛生士会、2013年12月15日（日）、ステーションコンファレンス東京
26. 大山巖雄：臨床科としての研究留学。グローバル人材育成推進事業。歯学部生・若手歯科医師のための留学セミナー。（2013年12月22日、東京医科歯科大学）

教室内研究発表会（東京医科歯科大学歯学部附属病院・特別講堂）

2013年2月16日（土）14：00～17：30・2月17日（日）10：00～15：00

（発表順）

- 1) 奥山紘平：下顎半側切除術、腓骨皮弁による即時再建術を行った小児の下顎エナメル上皮線維腫の1例
- 2) 三浦千佳：形成外科と連携して行った腓骨再建の適応と実態
- 3) 山口 聰：歯髄細胞の増殖・分化に対する血清の影響
- 4) 道川千絵子：口腔扁平上皮癌の顎部リンパ節転移巣における被膜外浸潤について
- 5) 高橋謙一郎：高密度SNPs Microarraysを用いた口腔扁平上皮癌原発巣と転移巣間での遺伝子CNV解析
- 6) 和気 創：当科における顎関節症治療の現状。－2011年臨床統計より－
- 7) 儀武啓幸：新しい開口器の開発
- 8) 寺内正彦：当科におけるエプーリスの臨床統計的検討
- 9) 大上えりか：当科における粘液腫の治療について。－2002～2012年
- 10) 倉沢泰浩：舌癌治療後に発症した胸膜中皮腫の一例
- 11) 遠藤寛則：静岡病院における口腔癌治療の概要
- 12) 宮嶋大輔：顕著な骨破壊により上顎骨中心性癌を疑った一例
- 13) 炭野淳：舌扁平上皮癌の術後フォローにおける後発転移リンパ節の発見について
- 14) 名生邦彦：80歳以上の超高齢者口腔扁平上皮癌の臨床的検討
- 15) 細木美佐：髄外再発として見られた顎下腺部顆粒球肉腫の一例
- 16) 加地博一：慢性下顎骨髄炎に皮質骨除去は有効か
- 17) 友松伸允：歯性上顎洞炎の予後因子に関する検討
- 18) 中地浩之：診断に苦慮した口唇炎の一例
- 19) 園田 格：難治性・多発性口内炎の一例
- 20) 熊谷順也：味覚障害の要因について
- 21) 香月佑子：片側唇顎口蓋裂患者に対する術前顎発育誘導における歯槽弓形態改善因子の検討
- 22) 長岡亮介：最小回数の手術で若年期に外科治療をほぼ終了した片側唇顎口蓋裂の一例
- 23) 吉田千紘：当科における2012年のCLPの2-jaw
- 24) 佐藤 豊：医病歯病連携における口唇口蓋裂の症例
- 25) 星 礼子：下顎嚢胞におけるCT画像とオトガイ神経麻痺の関係
- 26) 荒木泰博：PET-CT SUV値と相関する因子について
- 27) 森田琢磨：口腔癌顎部転移リンパ節診断におけるFDG-PETの有用性の検討
- 28) 新垣理宣：口腔癌顎部リンパ節多発転移症例に対する臨床・画像診断学的検討
- 29) 近藤雄太：口腔癌患者における炎症反応性因子の臨床的有効性の検討
- 30) 川俣 綾：顎顔面癌患者におけるMohs軟膏の使用経験
- 31) 鈴木美保：当科における術後化学療法の実態
- 32) 道 泰之：術後CCRT中に生じた偽膜性大腸炎の一例
- 33) 渡辺 高：オトガイ形成術後に感染がみられた1例
- 34) 佐久間朋美：顎矯正手術に固執し対応に難渋した精神科的問題を有する顎変形症の2例
- 35) 小杉真智子：顎変形症術後の歯肉・皮膚の知覚変化の検討
- 36) 岡村武志：当科における過去4年間の顎変形症患者に対する自己血輸血の実態調査
- 37) 中久木康一：顎変形症手術における偶発症
- 38) 黒原一人：顎矯正手術術後に上顎の動揺が見られた症例

特許

1. 下顎頭の前方滑走を誘導する新型の開口訓練器の発明にて国際特許出願（開口訓練器：PCT/JP2013/083855）。国際特許(PCT出願)について、JST(独立行政法人 科学技術振興機構)の外国特許出願支援制度に採択。
2. 簡易開口路測定機能を有する新しい開口度測定器の発明にて特許出願（開口度測定器：特願2013-180390）

受賞等

1. Science day in Boston University. ADA/Dentsply Award. Harriman E.J, Ohyama Y, and Mochida Y. Characterization of Wdr72 Knockout Rats, Causative Gene for Amelogenesis Imperfecta. March 14, 2013
2. The American Society for Bone and Mineral Research 2013 Annual Meeting (ASBMR), Young Investigator Award: Yuki Matsushita, Kei Sakamoto, Tokutarou Minamizato, Kiyoshi Harada, Akira Yamaguchi: CCN3 participates in bone regeneration as an inhibitory factor Oct 3-7, 2013, Baltimore
3. 第58回日本口腔外科学会学術大会, ゴールドリボン賞, 阿部成宏, 山口聰, 佐藤豊, 原田清: Neurosphere法を用いたヒト口腔粘膜間葉組織由来幹細胞様細胞集団の単離と性状解析. (2013年10月11-13日)
4. 第13回日本口腔外科学会学術奨励賞, 阿部成宏, 吉増秀實, 佐藤豊, 藤村倫子, 三島木節, 村嶋真由子, 香月佑子, 上丸英, 新井直也, 天笠光雄: 上顎劣成長を伴った片側性完全口唇口蓋裂患者に対する上下顎移動術および骨延長術の顎顔面形態と後戻りに関する比較検討. 日口外誌 58(4): 204-211, 2012.
5. 平成25年度日本口腔組織培養学会学術奨励賞, 山口聰, 阿部成宏, 濱田啓一, 原田清: ヒト根未完成歯根尖部歯髓組織由来細胞の性質 -再生医療への応用を目指して- 日本口腔組織培養学会雑誌 22(2):15-26,2013
6. 第7回細菌学若手コロッセウム Young Investigator Award, 郷田瑛, 丸山史人, 道泰之, 加地博一, 中川一路, 原田清: 顎骨骨髓炎の細菌叢を規定する因子とコア・マイクロバイオーーム. (2013年8月7-9日)
7. 第58回日本口腔外科学会優秀口演発表賞, 郷田瑛, 道泰之, 村嶋真由子, 炭野淳, 守谷友二郎, 加地博一, 原田清: 顎骨骨髓炎に関連する細菌叢の高解像度解析. (2013年10月11-13日)
8. 第26回日本顎関節学会学術大会ポスター発表優秀賞, 和氣創, 儀武啓幸, 佐藤文明, 中久木康一, 和氣裕之, 小林明子, 木野孔司, 原田清: 当科における顎関節症治療の現状 2011年と1993年の比較. (2013年7月20-21日)